

2 0 2 4（令和6）年度学校自己評価報告書

2 0 2 5（令和7）年4月

学校法人A O I 国際学院

A O I 国際福祉専門学校

1 建学の精神

本校は、葵会グループの精神である「治す」と「防ぐ」を高いレベルで両立し健康な人生をトータルにケアしていく「福祉のこころ」を介護現場で実践できる人材の養成に努める。

2 教育方針

(1) 入学受け入れ方針（アドミッションポリシー）

本校は、支援・介護の専門化を目指す国内外の学生を対象に、2年間の教育課程で介護福祉士国家資格の取得を目指します。わが国の高齢社会でお年寄りや障害を持つ方は、“安心の介護”を求めています。本学では思いやりと感性が豊かな介護福祉士を目指し、広く福祉の現場で活躍する人間性豊かな学生を求めています。

(2) 教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）

本校介護福祉学科のカリキュラムは、「介護」「人間と社会」「こころとからだのしくみ」の領域が、介護の理論的裏づけによる構成になっています。介護の実務は、人に関わる実践的な学問です。学内で学んだ知識や技術と学外で学ぶ実習が統合されるよう進めます。その中でも特に適切な介護サービスの能力を養う「介護過程」では、その理解にあたり「アセスメント・計画の立案・実施・評価」といった知識と技術の統合を段階的に進めて行きます。その他、留学生の介護能力を高めるため「介護の日本語」など本学独自の科目も開設しています。

(3) 専門士（教育・社会福祉専門課程）授与の方針（ディプロマポリシー）

介護福祉学科では、教育・社会福祉専門課程の所定の課程を修了し、次の要件を全て満たす学生について専門士証書を授与します。

- ①本校介護福祉学科に2年以上在学し、定められた科目を履修した者
- ②学期末に実施される定期試験で、各科目（介護実習を含む）とも基準点に達している者
- ③専門士（教育・社会福祉専門課程）にふさわしい人格見識と健全な精神を有していることが学科会議で判定された者
- ④定められた学費及び諸経費を納めた者

2024（令和6）年度 学校自己評価について

AOI国際福祉専門学校では、葵会グループの精神である「治す」と「防ぐ」を基本理念とし、「福祉のこころ」を介護現場で実践できる介護福祉士の養成を実践しております。今後も教育内容のさらなる充実を図り、介護福祉士国家試験合格率向上に努めてまいります。

今、世界の人口は八十億人に達し、2060年には百億人を超え、65歳以上の人口は18億1千万人を超えると予想されています。日本を初め世界の多くの国々でも高齢者が増加し、高齢者が安心して生きることの喜びを持って楽しく暮らせる生活環境の整備が求められています。

本校では、日本はもとより、世界の高齢者が安心して暮らせる一助になるよう介護福祉士養成に尽力いたします。

1. 対象期間 2024（令和6）年4月1日～2025（令和7）年3月31日

2. 実施方法

1. 専修学校における学校評価ガイドラインを参考に実施
2. 年度末終了後に評価を実施
3. 評価結果はホームページに掲載

3. 自己点検評価項目

以下の11項目について実施

- ◇基準1 : 教育理念・目的・人材育成像
- ◇基準2 : 学校運営
- ◇基準3 : 教育活動
- ◇基準4 : 学修成果
- ◇基準5 : 学生支援

- ◇基準6 : 教育環境
- ◇基準7 : 学生の受け入れ募集
- ◇基準8 : 財務
- ◇基準9 : 法令等の遵守
- ◇基準10 : 社会貢献・地域貢献
- ◇基準11 : 国際交流

4. 評価項目に対する評価基準

適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

◇基準1 : 教育理念・目的・人材育成像

総合評価

4.0

評価基準

適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

評価項目		2024年度評価	達成状況	課題点	今後の取組み
1-1	学校の理念・目的・人材育成像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4	「治す」と「防ぐ」を介護の現場で実践できる介護福祉士の養成という理念が建学の精神に定められ、学生ハンドブックに示すと共に、ホームページでは、ネパール語を加えて8カ国9言語により公開している	特になし	継続して周知する努力を行う
1-2	学校における職業教育の特色は何か明確になっているか	4	本校は介護福祉士養成施設であり、教育及び卒業後の目的は明確である	特になし	継続して周知する努力を行う
1-3	社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	現代の高齢社会のニーズに合致した教育分野であり、今後益々必要となる分野である	特になし	定期的な見直しを行い、社会のニーズを踏まえた将来構想を策定する
1-4	学校の理念・目的・人材育成像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知がなされているか	4	学生ハンドブックに示すと共に、入学直後のオリエンテーションで説明している また、ホームページでは、ネパール語を加え、8カ国9言語により公開している	特になし	わかりやすい表現等を取り入れ、学生への周知に注力する

1-5	学科の教育目標、人材育成像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	「社会福祉士介護福祉士学校指定規則」で定められた教育内容と授業時間数を確保し、現代の介護に必要なカリキュラムを策定し教育を行っている また、人材育成像は建学の精神及びアドミッションポリシーで明確に述べられている	特になし	業界のニーズを捉え、カリキュラムや人材育成方法を検証する
-----	---	---	--	------	------------------------------

◇基準2 : 学校運営

総合評価

4.0

評価基準

適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

評価項目		2024年度評価	達成状況	課題点	今後の取組み
2-1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	目的に沿った運営方針は示されている	特になし	目的に沿った運営に努める
2-2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	運営方針に沿った事業計画が策定されている	特になし	事業計画に沿った運営に努める
2-3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	学校運営に関する規程、組織は整備されている	特になし	規程に沿った運営に努める
2-4	人事、給与に関する規程等は整備されているか	4	人事給与に関する規程等は整備されている	特になし	運用を行う中で必要に応じて規程を見直す
2-5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	組織としての運用はなされている	特になし	運用を行う中で必要に応じて規程を見直す
2-6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	教職員一人一人が倫理観を持ち学内規程や法令を遵守する事に自発的に取り組んでいる	特になし	常にコンプライアンスを意識した行動に努める
2-7	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4	ホームページで公開している	特になし	開示内容の検証
2-8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	データをNASで管理し共有化による効率化を図っている 共有のスケジュール表を利用して会議等の日程調整を効率化している 教育面では、学籍管理システムを導入し、効率化を図ると共に正確性も担保している	特になし	システム化による効率化を推進すると共に、システムの安定した稼働を担保する

◇基準3 : 教育活動

総合評価

4.0

評価基準

適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

評価項目		2024年度評価	達成状況	課題点	今後の取組み
3-1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	「社会福祉士介護福祉士学校指定規則」に基づき教育課程の編成、実施方針等が策定されている	特になし	「社会福祉士介護福祉士学校指定規則」の規程に基づいて策定していく
3-2	教育理念、人材育成型や業界のニーズを踏まえた学科としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	教育理念・人材育成型や業界のニーズを踏まえ、教員が中心となり、教育到達レベル、学習時間の確保を明確にしている	特になし	教育目標への到達については個人差があるので、個人指導にも取り組んでいく
3-3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	「社会福祉士介護福祉士学校指定規則」に則り、カリキュラムの作成は体系的に行っている	特になし	カリキュラムの作成、見直し等の検証を行っていく
3-4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	カリキュラムに介護福祉士としての実践的な実習が含まれている また、介護に関する機器や医療的ケアに関する医療器具を使用しての演習等、実践的な授業を行っている	特になし	実習施設からのフィードバックを通じて実習の評価を行っているが、これを継続していく
3-5	介護福祉分野の企業・関係施設や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	「社会福祉士介護福祉士学校指定規則」に基づき教育課程が編成されている それ以外の科目の見直しは必要に応じて行っている	特になし	カリキュラムの作成、見直しにより充実した教育内容を構築していく

3-6	介護福祉分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4	カリキュラムに介護福祉士としての実践的な実習が含まれている	特になし	実習施設からのフィードバックを通じて実習の評価を行っているが、これを継続していく
3-7	授業評価の実施・評価体制はあるか	4	全教員の授業評価を実施している	特になし	当該年度の実施内容を振り返り、次年度の評価項目の検討及び実施体制を整備する
3-8	職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	介護実習の評価を取り入れている	特になし	実習施設からのフィードバック及び外部関係者の評価を取り入れて授業内容の改善を図っていく
3-9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	学則及び学生ハンドブックに規定及び明示している	特になし	各基準を遵守し正確な運用を引き続き行う
3-10	資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	国家試験対策を授業に取り入れている	特になし	国家試験合格率アップ
3-11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	介護福祉士の資格を有し介護施設での経験豊富な教員を確保すると共に看護師の資格を有する教員も確保し、介護及び医療的ケアについて実体験を通じた人材の育成を行っている	特になし	社会のニーズを捉え必要な人材の育成に努める
3-12	介護福祉分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	外部研修に参加し研鑽を積むと共にFDとして報告会を実施し、知識と情報の共有を図り、教員の質の向上を目指している	特になし	自発的な参加を促して行きたい
3-13	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	外部研修に参加し研鑽を積んでいる	特になし	学内でSDを通じて能力開発を行う

◇基準4：学修成果

総合評価

3.4

評価基準

適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

評価項目		2024年度評価	達成状況	課題点	今後の取組み
4-1	就職率の向上が図られているか	4	就職率100% 卒業生56名、就職56名	特になし	今後も現在の取組みを継続する
4-2	資格取得率の向上が図られているか	2	合格者9名	留学生が多く、日本語の壁に苦労している	国家試験対策講座の内容及び方法を検討して実施する 留学生への日本語教育を継続して実施する
4-3	退学率の低減が図られているか	4	退学なし	特になし	入学前の日本語学校在学中のオーバーワークによる退学を防ぐため、引き続き入試段階でオーバーワークのチェックを厳しく行う
4-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3	数カ所の就職先からの情報を得ている	卒業生全ての情報を得ていない	就職先への調査数を増やす
4-5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	卒業生を学校に招いて在校生との交流会を開催し、その際に卒業後のキャリア形成等に関して意見交換を行い教育活動の改善に活用している	特になし	少しでも多くの卒業生に参加を促す

◇基準5 : 学生支援

総合評価

3.9

評価基準

適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

評価項目		2024年度評価	達成状況	課題点	今後の取組み
5-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	就職への支援体制は整備されている	特になし	引き続き現在の支援体制を維持する
5-2	学生相談に関する体制は整備されているか	4	相談内容により、担任あるいは事務員が面談を行い細かいケアを行っている	特になし	学生が相談しやすい環境の整備を心がける
5-3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	奨学金制度の利用をサポートしている 短期貸付制度を整えている	特になし	引き続き、奨学金制度の利用に向けてサポート体制を整える
5-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	年1回の健康診断を実施し、問題があれば学生へのフォローを行っている、また看護師資格を持つ教員が日常の健康管理を行っている	特になし	引き続き現在の支援体制を維持する
5-5	学生の生活環境への支援は行われているか	4	学内貸付金制度を設け生活資金の不足などの際に対応している また、引っ越しの必要がある学生には不動産会社を紹介しスムーズな引っ越しが出来るよう支援するなど、生活環境全般に渡る支援をしている	特になし	引き続き現在の支援体制を維持する
5-6	卒業生への支援体制はあるか	4	卒業生からの相談には、元担任や関係部署で対応している	特になし	引き続き現在の支援体制を維持する

5-7	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	職業訓練委託校として1名が卒業した	特になし	今後も実務者研修などの講座開設に向けて検討をおこなう
5-8	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3	高等学校の出前授業等のチャンスがあれば行っている	高等学校の受入が少ない	高等学校との連携強化

◇基準6：教育環境

総合評価

4.0

評価基準

適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

評価項目		2024年度評価	達成状況	課題点	今後の取組み
6-1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	介護福祉士養成施設として認定されており施設、設備は十分整備されている	特になし	施設、設備の点検、整備を怠らず教育環境の整備に努める
6-2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	4	学内外実習施設は適正に確保されている	特になし	引き続き現状の体制を維持する
6-3	防災に対する体制は整備されているか	4	教職員、在校生全員分のヘルメットを整備している 法令に従い点検を行っている 防火管理者2名在籍	特になし	引き続き現状の体制を維持する

◇基準7 : 学生の受け入れ募集

総合評価

4.0

評価基準

適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

評価項目		2024年度評価	達成状況	課題点	今後の取組み
7-1	学生募集活動は、適正に行われているか	4	学生募集活動は適正に行われている	日本人の入学者が少ない	県立、私立の高校へのアプローチを積極的に行い、本校への進学に結び付ける
7-2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	オープンキャンパス等において国家試験合格者数や就職率等を説明している	特になし	引き続き正確な情報発信を行う
7-3	学生納付金は妥当なものとなっているか	4	他校と比較しても同等であり、社会通念に照らし合わせても妥当だといえる	特になし	経済状況や他校の状況を確認しながら決定していく

◇基準8：財務

総合評価

4.0

評価基準

適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

評価項目		2024年 度評価	達成状況	課題点	今後の取組み
8-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	学生数を安定して確保出来たことにより、次年度への繰越支払資金が大幅に増加した	特になし	日本人学生の確保に注力すると共に、留学生を含め安定的な学生数の確保に注力する
8-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	収入と支出のバランスはとれている	特になし	健全経営を目指し収入と支出のバランスを取りながら運営を行う
8-3	財務について会計監査が適正に行われているか	4	決算毎に監事による監査を実施している	特になし	引き続き正確な会計処理を目指す
8-4	財務情報公開の体制整備はできているか	4	ホームページでの開示及び事務室に備え付け閲覧可能となっている	特になし	引き続き情報公開の整備に注力する

◇基準9： 法令等の遵守

総合評価

3.8

評価基準

適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

評価項目		2024年度評価	達成状況	課題点	今後の取組み
9-1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	法令及び設置基準を遵守し適正な運営を心がけている	特になし	引続き適正な運営を心がけていく
9-2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	書類等は施錠による管理を行っている データに関しては、アクセス権の設定及びパスワードにて管理している	特になし	引続き適切な保護を心がけていく
9-3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3	自己評価を確認し、毎年問題点の改善に努めている	対応が不十分な評価項目がある	問題点の改善に向けて取組む
9-4	自己評価結果を公開しているか	4	ホームページで公開している	特になし	自己評価を適切に行い公開する

◇基準10 : 社会貢献・地域貢献

総合評価

2.0

評価基準

適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

評価項目		2024年度評価	達成状況	課題点	今後の取組み
10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	1	特別な取組みは行われていない	体制整備が整っていない	地域のニーズを汲み取り地域貢献に向けて検討したい
10-2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	1	特別な取組みは行われていない	留学生が多く、地域のボランティア活動へのハードルが高い ボランティア活動への意識付け	地域のニーズを汲み取りボランティア活動の推進に向けて取組みたい
10-3	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	職業訓練受託校として社会人の受入れを行っている	特になし	今後も実務者研修などの講座開設に向けて検討を行う

◇基準11 : 国際交流

総合評価

4.0

評価基準

適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

評価項目		2024年度評価	達成状況	課題点	今後の取組み
11-1	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4	受入れについては、出身国及び日本語学校等と連携を取り長期戦略を持って受入れを行っている	特になし	オンライン面接や受験の態勢を整備して、海外からの直接受験希望者への対応を強化する
11-2	受入れ、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4	受入れ、在籍管理においては法的な手続きも含め適切に行われている	入学前の資格外活動の就労時間等の把握が難しい	資格外活動の就労時間等の把握に努める
11-3	留学生の学習・生活指導等について学内の適切な体制が整備されているか	4	正課外に日本語教育を行う等学習面でのフォローを行っている、また、生活指導ではアルバイト先の管理や在留資格更新手続き等のフォローを行っている	特になし	留学生個々の違いを把握しながら、適切な指導体制を整備する
11-4	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	国内の就職先からは高評価を得ている	特になし	世界の高齢化を見据え、引き続き留学生に向けた介護教育を推進する